

木村伊兵衛

Ihei KIMURA



秋田おぼこ、大曲、秋田、1953年 ©Naoko Kimura

2026
4・25
[土]
—
6・21
[日]

写真に生きる

新居浜市美術館 Niihama City Museum of Art

【開館時間】 9:30 ~ 17:00 (入場は16:30まで)
【休館日】 月曜日 (ただし5月4日、6月1日は開館)、
5月7日(木)、6月2日(火)

【主催】 新居浜市美術館 【後援】 新居浜市教育委員会、愛媛新聞社、
NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、
ハートネットワーク、新居浜文化協会、国際ソロプチミスト 新居浜みなみ、
国際ソロプチミストアール新居浜 【企画制作】 クレヴィス



街角、湯分、秋田、1953年



町通り、新宿野郎、東京、1953年

木村伊兵衛

写真に生きる



ライカを構える木村伊兵衛自写像、1965年



本郷通り、東京、1953年



原宿の市街、本郷通り、神武、1953年



エッセル、パリ、フランス、1955年

all images ©Naoko Kimura

本展覧会は、日本の写真史に大きな足跡を残した写真家・木村伊兵衛(1901-1974)の仕事を紹介するものです。

木村伊兵衛は、1901(明治34)年、東京市下谷の紐職人の家に生まれ、京華商業学校に進学します。その頃から写真に熱中し、卒業後、砂糖問屋の台湾支店に就職しますが、そこでも、仕事場近くの写真館に出入りし、営業写真の技法を教わりました。1924年には自宅写真館を開き、1929年に花王石鹸の広告部門でプロ写真家として活動を始めています。

1920年代に実用化が始まったばかりの小型カメラに写真表現の可能性をいち早く見出した木村伊兵衛の写真には、文芸諸家のポートレートや歌舞伎などの舞台写真、沖縄や東京下町の生活感あふれる日常の場面を素早く切り取ったスナップショット、カラーフィルムによる滞欧作品、秋田の農村をテーマにしたシリーズなどがあります。また、1950年に日本写真家協会初代会長に就任すると、アマチュアの指導者としても、土門拳とともに「リアリズム写真」の運動を推進しています。

独自の表現方法で、さまざまな被写体を捉え「ライカの名手」として名を馳せた、木村伊兵衛の作品約165点をご堪能ください。

関連事業

記念講演会

「写真に生きる—木村伊兵衛の写真世界—」

【日時】 5月24日(日) 10:00~11:00

【講師】 飯沢耕太郎(写真評論家)

【会場】 あかがねミュージアム地下1階
多目的ホール

※聴講無料 ※事前申込不要

ギャラリートーク

【日時】 5月24日(日) 11:30~12:00

【講師】 飯沢耕太郎(写真評論家)

【会場】 展示室1・2

※入場券要 ※事前申込不要

撮影会

【日時】 5月16日(土)及び17日(日)

14:00~16:00(受付13:30~)

【講師】 北原伸夫、青井正廣
(写真家・新潟県市美術委員会委員)

【会場】 あかがねミュージアム

【持物】 カメラまたはスマートフォン

【参加費】 800円

※先着20名(同日参加可複数名)

※事前申し込み要(電話0897-31-0305)

詳しくはホームページでご確認ください。

観覧料

	一般	65歳以上	大学生以下
当日	1,000円	800円	無料
前売り・団体	800円	600円	

※ただし小学生以下は保護者の同伴が必要
※団体料金は20名以上 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方(介助者1名を含む)は無料

【前売り券販売所】あかがねミュージアム、ハートステーション3店舗(新潟県テレコムプラザ店、イオンモール新潟県店、SAIJO BASE店)、ワクリエ新潟県

〒952-0812 新潟県新潟市東区坂井町2-8-1
あかがねミュージアム2階
TEL:0897-65-3580 FAX:0897-65-3581
<https://www.city.niigama.lg.jp/soshiki/bijutu/>



【交通案内】 JR予備線「新潟県」駅から徒歩すぐ/せとうちバス「新潟県」下車徒歩すぐ/磐山自動車道新潟ICからJR新潟駅方面へ車で15分 ※ナビ設定でお越しの際は、住所検索かJR新潟駅検索でお越しください。

【駐車場】 施設併設の有料駐車場があります。施設をご利用の方は駐車場内に3時間無料サービス券をお配りしています。※駐車場には限りがありますので、公共交通をご利用ください。



新潟県新潟市美術館
Niigama City Museum of Art